熊田恰
【くまたあたか】

(１８２５～１８６８)

備中松山藩士、名は短芳。恰は通称。備中松山城下本丁 (現高梁市川端町) に生まれる。
有終館で学び、新影流の師範であった父武兵衛のもとで剣術を修めた。慶応四年 (一八六八) 鳥羽伏見の戦の時、藩主勝静の親衛隊長として大阪詰めで活躍した。戦いの後、勝静から帰藩を命じられ、玉島 (現倉敷市玉島) まで帰ったが、ここで岡山藩の征討をうけ、配下一五〇余名の助命を請い、自刃した。

- 幕末辞典 -